

進捗状況の概要（1ページ以内）

① 学内の実施体制

全学的な教育改善計画の企画・立案権限を有する教育・研究担当副学長の統括の下で、教育改善推進室運営委員会が推進方策をまとめる。この方策に沿った本事業の実務は、未来科学部長が委員長、未来科学部の事業担当教授が副委員長を務める AP 推進委員会が統括し、そこで審議された方針が学部教学委員会の議を経て、未来科学部の3学科で実施される。本補助事業の成果の全学への波及に関しては、教育改善推進室運営委員会できまとめられた推進方策を学長が議長を務める大学評議会及び大学調整連絡会議でオーソライズし、各学部長経由で各学部教学委員会に下ろし、各学部で推進される。

② 中心となる取組

本補助事業の中心的取組は、教育の実効的質保証枠組の構築、反転授業による授業外学修時間増加とアクティブ・ラーニング重視の教育の実現、及び教員評価制度導入による教員教育力向上にある。

③ 取組の成果

未来科学部の改革とその全学波及により大学全体の教育改革を加速中で、下記の成果を得ている。

1. 教育の質保証枠組みの整備

(1) 3つの方針の実質化：ディプロマ・ポリシー(DP)の内容と水準を、本学の使命と整合性ある目標として具体的に記述し、カリキュラム・ポリシー(CP)にDP育成の5科目群を設定することで、DPとCPの整合性を確保した。また、CPの具体化のためのカリキュラムマップ、シラバスを設定した。

(2) DPの達成度評価の実現：汎用的能力の達成度評価用ルーブリック体系の開発・普及、これを用いたe-ポートフォリオ上での学生の達成度評価により、DPの全項目の達成度が定量的に評価できる体制、またその結果の分析と改善の体制を整備した。今後この結果を利用し、卒業時学修成果の客観的提示法であるショーケース型ポートフォリオの作成システムを本年度中に完成させる予定である。

2. アクティブ・ラーニング(AL)を重視した教育手法・内容の充実

(1) 反転授業導入(36.4%)とAL(77.7%)の普及

(2) シラバスへの授業外学修時間記載(授業外学修時間25.1時間/週)

3. 教員教育力向上

(1) 教員教育力向上のための教員評価制度構築(H29年度まで試行、H30年度より本格実施)

(2) FDの実施(H29年度には17回のFD開催、全学で86.7%の参加率達成)

④ 補助期間終了後の継続発展に向けた取組

(1) 学内教育改善体制：教育・研究担当副学長が統括し、教育・研究担当副学長、教育改善推進室長、各学部からの教育改善推進室副室長、各学部長、各キャンパス事務部長等で構成される教育改善推進室運営委員会で、成果の波及を含む全学教育改善方針を纏め、大学評議会、大学調整連絡会議でオーソライズし、各学部長経由で各学部教学委員会が教育改善を推進。

(2) 教育質保証枠組は教育改善推進室の指導の下、既に全学的に同一レベルで構築・運用されている。

(3) 反転授業とアクティブ・ラーニング(AL)の導入拡大は全学波及予定

(4) H30年度から教員評価制度を「第三者評価がある教員の自己点検評価制度」として本格実施

(5) e-ポートフォリオを利用した教育目標(DP)達成度評価は、アセスメント・ポリシーの全学的な設定を計画中で、その中に組み込んで全学波及させる予定

(6) 大学満足度調査、学修行動調査実施は全学波及予定

(7) 卒業時学修成果の客観的提示は、アセスメント・ポリシーに組み込み、全学波及予定

⑤ 学内外への波及効果

(1) APフォーラム(H30.2.15, 参加者181名(学外35名)、テーマ「アクティブラーニングとルーブリック評価」)

(2) JABEE-日工教共催ワークショップでルーブリックを用いた質保証枠組の講演(H27-H29:6回)

(3) 本学のFDの他大学への公開(H29年度は学外者102名参加)